

“ミュージザ川崎は、これまででもトップ2に入る素晴らしい音響”

お気に入り、ミュージザ川崎シンフォニーホールでの公演が
今ツアー首都圏唯一のリサイタルとして、実現！

2021年のショパン・コンクールでの演奏が世界中で話題になり、2022年の来日公演では各地で満員を記録したスペイン生まれの若きヴィルトゥオーゾ、マルティン・ガルシア・ガルシア。そして2023年夏、首都圏唯一のリサイタルとしてチョイスされたのは、本人も大層お気に入りのミュージザ川崎シンフォニーホールだ。

昨年、見ているだけで聴いている方も楽しくなるような、豊かな表情、その裏にある確かな技術、とりわけ鍵盤に手が貼り付いたような揺るぎないタッチから生まれる宝石のような音色を生演奏で見聴きし、さらに心酔したファンも多いことだろう。だが逆に、彼の方もいたく日本が、とりわけミュージザ川崎シンフォニーホールが気に入ったようで、「演奏した音がホールを埋め尽くし、同時に自分に返ってくる」と、大きな敬意を持って評している。

あの心から音楽を楽しむ姿を、演奏を、本人が“本当に素晴らしいホール”と語るミュージザ川崎で聴く幸せ。

——ファンとして、じっくり噛みしめたい。

マルティン・ガルシア・ガルシア (ピアノ)

Martín García García (Piano)

マルティン・ガルシア・ガルシアはスペイン、ヒホン生まれのピアニスト。5歳からピアノを始め、ナタリア・マズーンとイリヤ・ゴールドファープの元で学ぶ。レイナ・ソフィア音楽学校を卒業、ソフィア女王から最優秀学生賞を受ける。またニューヨークのマネス音楽院の修士号も取得。

いくつかの国内、国際コンクールで第1位を獲得。2021年クリエブランド国際ピアノコンクールで優勝、第18回ショパン・コンクールで第3位と最優秀協奏曲特別賞を受賞する。2018年ニューヨークで開催された国際キーボード・インスティテュート&フェスティバルで第1位を獲得、同時にそこでの奨学金を得る。

現在、彼はヨーロッパとアメリカ等でコンサートを開催、ウラジミール・クライネ

フ、ドミトリー・アレクセーエフ、アルカーディ・ヴォロドス、デイミトリ・バシキロフ、ホアキン・アチューカロ、タチアナ・コーブランド(セルゲイ・ラフマニノフの姪)などの音楽家から非常に高い評価を受けている。

2021年10月ワルシャワで開催されたショパン・コンクールで成功を取めたガルシアは、日本、ヨーロッパ、アメリカでコンサートツアーを開催。

現在ニューヨークに在住。著名なピアニスト、ジェローム・ローズに師事している。

2022年5月、日本に初来日し10公演のツアーを行う。同年10月、11月にも来日し、サントリーホールのデビューリサイタルを開催、完売。2000人の聴衆を魅了した。

MARTÍN GARCÍA GARCÍA
Piano Recital 2023